

介護負担、子育て負担をなくし、 全世代が安心して住み続けられるまちづくり

富田林市の人口動向は若い世代の流出が増加し、全体人口が減少傾向にあります。現時点の財政は黒字ですが、人口減少・少子高齢化が進行すれば、令和7年以降は実質収支額がマイナスになると予測されています。そのため、早急に財政に頼らない介護支援を導入していきたいと考えています。財政が安定すれば、働き世帯への負担は減って子育てしやすいまちになり、若い世帯が増えれば税収が増え、福祉サービスのさらなる充実へと好循環に切り替えていけます。皆さんご承知の通り、子育て支援は待ったなしです。子育て支援と介護予防の支援は同時進行でやっていかなくてはなりません。どの世代もが、安心して住み続けられる政策を今城かつひさは実践していきます。

生き生きと暮らすための健康寿命の延伸

介護費の削減や家族の介護負担の軽減には、介護予防が何よりも大切です。高齢者の場合、家に閉じこもりがちになることで筋力が低下し、要介護や認知症になる可能性が高まります。

趣味ややりがいを持ちながら充実した毎日を送れるように、まちのコミュニティを活性化しながら、健康寿命の延伸に導いていきます。

介護する人もされる人も幸せになり、地域で見守る介護の実現

在宅療養を促進することで、病院や施設で治療・ケアを受けるよりも医療費負担の軽減になります。介護環境を整えることで、住み慣れた自宅でケアを受けながら、最期まで好きなことができる介護を目指します。

介護する人への支援を充実させることで、介護される人も介護する人も幸せになれる介護体制や、認知症になっても笑顔で暮らしていけるように地域で見守る介護体制も整えていきます。

安心して住み続けられる子育て支援の拡充

共働きの世帯やひとり親の世帯から「子どもが病気になった時、預け先がなくて困っている」「保育費用の負担に困っている」という声をよく聞きます。実際に私も2児を育てる共働き世帯として実感しています。0～2歳児の保育料の無償化やサブスクを使った手ぶらでの通園、ICTを使った保育現場の見守りや業務改善などは、他の自治体で導入されている事例もあり、この富田林市でも導入できるように取り組んでいきます。また、働き世代が安心して働き続けられるよう、日曜保育や病児保育の充実を目指します。

子どもが夢や希望を持てるクラブ活動の充実

少子化に伴い児童数が減少している中で、したい部活がない、したいスポーツを選ぶことができない状況が問題となっています。その解決策として、総合型地域スポーツクラブ(*詳細下記に記載)を多種目で推進、普及させ、子どもたちが生き生きとスポーツに親しむことができるまちづくりを目指します。子どもたちがワクワクするような環境を整備することで、子どもたちに夢と希望を持ってもらえたらと思います。

*総合型地域スポーツクラブとは、従来の学校でのクラブ活動を地域で支援する取り組みです。

スイミングや野球など、様々なスポーツクラブをとりまとめ、体育館やグラウンドなど共有施設の管理や、紙媒体やWebを通じた広報、受付事務などを行います。市民の方たちは地域を超えて興味のあるスポーツ・チームに参加することができます。

今城克久(いまじょうかつひさ)プロフィール

経歴

- 富田林市藤沢台在住
- 1980年生まれ(42歳)
- 妻も看護師で共働き、子育て真っ最中
- 息子(4歳半)と娘(2歳)の4人暮らし
- 大阪府立大学(現在大阪公立大学)看護学部卒業
- 大学在学中は介護のアルバイト経験あり
- 急性期病院勤務後、富田林市で8年間在宅での訪問看護と訪問介護に携わる

取得資格

看護師 / 保健師 / ケアマネジャー

趣味

美味しいものを食べること、
スポーツ観戦(主にテレビでの観戦)、ゴルフ



『患者さん利用者さんに元気を与える存在でいたい。』

『笑顔で日常生活が送れるように、困ったことがあれば、
患者さん利用者さんのお話を聞く』をモットーとする。

現場目線の改革で未来に夢と希望を

笑顔
あふれる
健康都市

